

い かい の 猪飼野 コリアタウン

～ 古代から現代にいたる朝鮮ゆかりの史跡探訪 ～

大阪市生野区は全国一の在日朝鮮人の多住地域です。韓国・朝鮮籍をもつ在日朝鮮人だけでも約3万人で、生野区の人口の約4人に1人にあたります。

JR、近鉄、地下鉄が交差する鶴橋駅界隈には、キムチの匂いが漂い、色鮮やかな民族衣装のチマチョゴリなどを売る店などが所狭しと建ち並ぶ国際市場が広がっています。

そこから南東へ約1kmに位置する御幸森商店街は朝鮮市場／コリアタウンと呼ばれ、特に在日朝鮮人が密集して暮らす街です。旧猪飼野にあたるこの界隈は、古代には百済系渡来人の活躍の地でした。そこは百済郡内にあって、渡来の文化と人々が上陸した古代の国際港難波津の一つに面し、百済川の水運に恵まれた交通の要衝でした。



御幸森神社

御幸森神社の「由緒書き」の裏には、「猪飼野」の説明が載っています。この「猪飼野」の地名の起こりは、大変古く日本書紀の仁徳天皇14年の条に「猪甘津に橋わたす」その猪甘の津（＝みなと）に由来します。後に、入江が陸地化して「猪飼野」となったと言われています。



大阪コリアタウン
歴史資料館

徳山物産創業者である洪呂杓（ホンヨピョ）さんが日韓文化交流施設「班家食工房」を2003年に建てられました。

それから20年目の2023年に「大阪コリアタウン資料館」が設立されました。



コリアロード

地名としては消えてしまった「猪飼野」の中心にある「朝鮮市場」こと御幸森商店街は、数年かかりコリアゲートの完成を機に、コリアロードと呼ばれるようになりました。ソカイ道路と平野川を東西に結び、長年の間、在日朝鮮人の胃袋を満たしてきました。

うらへ

4



いくのパーク

大阪市生野区にある御幸森小学校は、「多文化共生教育」のとりくみで知られていました。しかし、2021年3月に児童減少などの理由で閉校。朝鮮半島にルーツがある児童が多く通ったその学校の跡地が、さまざまな国籍や世代間の「共生」をめざす拠点施設に変わりました。

また近代に入っては、日本の朝鮮植民地支配の結果、韓国・済州島などから多くの朝鮮人がこの地への居住を余儀なくされました。コリアタウンの東をほぼ直線状に流れる平野川は、「歴史の川」として、その事実を今に伝えています。大阪コリアタウンは、日本の「過去」と「現在」と「未来」の根幹に関わる課題が「凝縮」している街でもあります。

1910年に朝鮮は日本のものになりました。1920年頃には土地などを奪われた人たちが、日本に来て生活せざるをえませんでした。1923年には済州島と大阪をつなぐ直行船、「君が代」が就航します。朝鮮からたくさんの人たちが仕事を求め、移り住み、街が

できました。15年戦争がはじまると、ますます労働力不足になり、たくさんの朝鮮人が暮らすことになりました。戦後も住み続け、自分たちの力で学校や病院を建てたり、知恵と力とお金を出し合い、昔の朝鮮市場から朝鮮文化や人権を発信し続けるまち、コリアタウンになりました。

5



大阪朝鮮第四初級学校

戦後、朝鮮人児童へ朝鮮語を教える国語講習所が開設されました。その後、社会の変化とともに改称、合併、閉鎖、再建などがおこなわれ、現在地に大阪朝鮮第四初級学校となりましたが、2022年度に廃校となりました。現在も校舎はそのまま残っています。

6



つるのはし

文献上「日本最古の橋」というその橋の跡が、この「つるの橋」跡です。「つるの橋」は旧桃谷街道・鶴橋街道を渡り、河内・大和に至る交通の要所に架けられ、難波と河内・大和をつなぐメインブリッジでした。

コリアタウンの土台となった猪飼野の歴史は、日本と朝鮮半島の間で生まれた交流が古代から積み重なり、現代の生野区での朝鮮文化や人権を発信し続けるまちづくりに結びついています。日本（大阪）の中の「朝鮮」を歩きながら人権の大切さや共生社会の在り方について学びました。